

# 合併に思う

特集



発行所  
堀田賢逸後援会

平鹿町醍醐字醍醐98-2  
Tel.0182-25-4011  
e-mail:igohotta@rnac.ne.jp

金ノ川 高橋 幸雄

市町村合併は、平成十七年三月末までの合併を目標に法定協議会設立に向かって、地区内での合併懇談会が開催されているが、地区住民の参加の状況はどうだろうか。

地区住民の合併に対する意識の少なさが懇談会への出席率に表れているとの声もあるが、本当にそうだろうか。

合併に向けた懇談会の方法にも問題があるのではないか。地区住民の合併により考えられる全てのことをシミュレーションしてパンフレットにして、住民に配布し、その内容を説明するといふ方法が本当に住民が知りたい市町村合併の姿なのだろうか。

合併後に考えられる財政、福祉、教育、住民サービスは、もちろん、特に地区内の基幹産業である農業生産、農業施設はどうあるべきか、どうすべきか、というよう、に部門別にした懇談会をその関係住民を集めての懇談会の開催も必要なではないか。

もちろんこの点は合併を予定される市町村からそれなりの見識者や市町村議員、市町村担当者を構成員とした検討委員会等で充分に検討する準備にうるさい。もちろんこの点は合併を予定される市町村からそれなりの見識者や市町村議員、市町村担当者を構成員とした検討委員会等で充分に検討する準備にうるさい。

さて、市町村合併問題が世上を賑わしている。すでに新市名を決めた地域もあるが、独立の姿勢を崩さないとこどもある。合併を推進する要因は数多くあるだろうけれども、私達にもはつきりわかるのは、地域行政の合理化ではないでしょうか。合併する事によつて議員と職員の数を少なくして費用の削減をする。交通通信網の発達、住民の生活圏が市町村の枠を超えて広域化しているため広域的な町づくりが必要である。

それと人口の減少、高齢化が進み税金を払う人が少くなり、財政がもたなくなるなど、いろいろな要因が考えられます。

国が求めている期限内に合併する事、いろいろな優遇措置を受ける事が出来るようですが、それはあくまでも一時的なものであり、期限にとらわれずには住民の納得がゆくようないふれで合併を推進してもらいたいものであ

下通り 小場健一郎

後援会長

藤原 正

平成の合併——いま、日本中の国民が悩まされて、いる最大にして最高の難問。

時間まで引かれてるので更に厄介である。この紙面でも合併問題に触れてきましたが、突然天から降るように起り、時間を切つて結論を迫られて、も、町民にとつては、材料を前に何を作つたら良いのかメニューを決めるための時間が足りないというのが実感。

法定協議会設立の時期であるが、編集委員会は、あえてこの時に町民の声を聞いてみたいと何人かの方に投稿をお願いした。今までそのような機会が無かつたと思うからである。

合併説明会の参加が低調だ、関心が薄い等の声も聞かれるが、どうではない。みんなが関心を持つていて、具体的で建設的な意見や不安も持つてゐることがうかがえる。

合併特例法の特例債、議員の在任特例と定数特例をはじめに使用した場合の費用の増大が後に財政を圧迫することになります。

この声を「いまさら」としないで、この声にそしもつと多くの声に耳を傾けて下さることを関係者に訴えたい。そしてそれを見守りたい。

特例などと言わざ首長と同じ選挙をするようにしてください。

また出来るならば住民投票も希望します。

今、毎日のように新聞やテレビ等で報道される市町村合併は、「何のため、誰のため、何故今必要なのか」。わからないのは私だけでしょうか。今後の少子・高齢化を考えると、今まで以上に財政が悪くなり、住民サービスの低下を招くことから「早く体力をつけた方が有利」と考える人が多いようだ。

しかし財政を悪くした原因は何なのか、考え方論議する必要がある気がする。そうでなければ同じ事を繰り返すだけと思う。前の合併から46年、ようやく地域エゴも無くなり今後一段の発展が期待される時期に又、合併とはと思う人も少なくないだろう。

私は財政を悪くしたのは、地域住民ではなくそのような財政運営をした議会や当局にある気がする。歳入と歳出のバランスを崩した財政運営の証しじう。

今後、県南の中核都市を目指す、住み良い、元気で、自信の持てる都市を目指しているが、今の状態ではたして出来るだろうか。

合併協議会で議論されたことを各議会に持ち帰り説明を受け議論する。しかし「17年3月合併有りき」で話をする以上、「議論以上にまず合併」これではいくら住民説明しても理解を得ることは出来ないと思う。国保や固定資産税、住民税、ゴミの回収、学校給食、上下水道料金、保育料等々取り上げればきりがない。しかしこれらは最低限に必要な事であると思う。

高いところにあわせるか、低いところにあわせるか、大変な問題になる。住民サービスを低下させないために負担増では困る。

こうならないよう切に議員先生方一考してほしい。合併特例法の特例債、議員の在任特例と定数特例をはじめに使用した場合の費用の増大が後に財政を圧迫することになります。

この声を「いまさら」としないで、この声にそしもつと多くの声に耳を傾けて下さることを関係者に訴えたい。そしてそれを見守りたい。

特例などと言わざ首長と同じ選挙をするようにしてください。

また出来るならば住民投票も希望します。

議員	議員	議長	副議長	議員全員の報酬	任期満了一覧		
						市町村長	議会議員
横手市	26	40,521	365,000	429,000	153,296,000	横手市	平成19.04.30
平鹿町	21	14,941	260,000	312,000	88,464,000	平鹿町	平成17.09.01
雄物川町	20	11,300	247,000	293,000	79,968,000	雄物川町	平成16.03.31
大森町	18	8,103	248,000	293,000	72,288,000	大森町	平成16.04.30
大雄村	15	5,864	224,000	280,000	54,944,000	大雄村	平成16.03.31
山内村	16	4,859	225,000	282,000	58,816,000	山内村	平成17.08.31
合計	116	85,388			507,776,000		平成19.04.29

(夏期、年末手当も含む。政務調査費、日当は各市町村で異なるので除外した。)

市町村合併は今、平成十七年三月末までの合併を目標に法定協議会設立に向かって、地区内での合併懇談会が開催されているが、地区住民の参加の状況はどうだろうか。

地区住民の合併に対する意識の少なさが懇談会への出席率に表れているとの声もあるが、本当にそうだろうか。

合併に向けた懇談会の方法にも問題があるのではないか。地区住民の合併により考えられる全てのことをシミュレーションしてパンフレットにして、住民に配布し、その内容を説明するといふ方法が本当に住民が知りたい市町村合併の姿なのだろうか。

合併後に考えられる財政、福祉、教育、住民サービスは、もちろん、特に地区内の基幹産業である農業生産、農業施設はどうあるべきか、どうすべきか、というよう、に部門別にした懇談会をその関係住民を集めての懇談会の開催も必要なではないか。

もちろんこの点は合併を予定される市町村からそれなりの見識者や市町村議員、市町村担当者を構成員とした検討委員会等で充分に検討する準備にうるさい。もちろんこの点は合併を予定される市町村からそれなりの見識者や市町村議員、市町村担当者を構成員とした検討委員会等で充分に検討する準備にうるさい。

さて、市町村合併問題が世上を賑わしている。すでに新市名を決めた地域もあるが、独立の姿勢を崩さないとこどもある。合併を推進する要因は数多くあるだろうけれども、私達にもはつきりわかるのは、地域行政の合理化ではないでしょうか。合併する事によつて議員と職員の数を少なくして費用の削減をする。交通通信網の発達、住民の生活圏が市町村の枠を超えて広域化しているため広域的な町づくりが必要である。

それと人口の減少、高齢化が進み税金を払う人が少くなり、財政がもたなくなるなど、いろいろな要因が考えられます。

国が求めている期限内に合併する事、いろいろな優遇措置を受ける事が出来るようですが、それはあくまでも一時的なものであり、期限にとらわれずには住民の納得がゆくようないふれで合併を推進してもらいたいものであ

る。

日課の散歩で、稲穂が出ているのを見つめ、もうすぐお盆だと言うのに暑い日がほとんど無い。典型的な冷夏である。気象は自然のなせる業、われわれ人間には如何ともしがたい事が、そんな中で稲穂が出た。何とかましい事か、こんなことを殊更に思ふ。とうすれば時間がないとのことで、主に「合併することが最優先」になるのが、誰もが直接参加できる共生社会の構築を念頭に置いて、町づくりの方針にしています。合併前に十分に検討し住民と直接話し合はれて、それが合併に向かうべきではなかろうか。しかし誰もが直接参加できる共生社会の構築を念頭に置いて、町づくりの方針にしています。合併後では遅いんです。今はまだ、これからです。

この声を「いまさら」としないで、この声にそしもつと多くの声に耳を傾けて下さることを関係者に訴えたい。そしてそれを見守りたい。

特例などと言わざ首長と同じ選挙をするようにしてください。

また出来るならば住民投票も希望します。

（夏期、年末手当も含む。政務調査費、日当は各市町村で異なるので除外した。）

市町村合併問題が世上を賑わしている。すでに新市名を決めた地域もあるが、独立の姿勢を崩さないとこどもある。合併を推進する要因は数多くあるだろうけれども、私達にもはつきりわかるのは、地域行政の合理化ではないでしょうか。合併する事によつて議員と職員の数を少なくして費用の削減をする。交通通信網の発達、住民の生活圏が市町村の枠を超えて広域化しているため広域的な町づくりが必要である。

それと人口の減少、高齢化が進み税金を払う人が少くなり、財政がもたなくなるなど、いろいろな要因が考えられます。

国が求めている期限内に合併する事、いろいろな優遇措置を受ける事が出来るようですが、それはあくまでも一時的なものであり、期限にとらわれずには住民の納得がゆくようないふれで合併を推進してもらいたいものであ

る。

日課の散歩で、稲穂が出ているのを見つめ、もうすぐお盆だと言うのに暑い日がほとんど無い。典型的な冷夏である。気象は自然のなせる業、われわれ人間には如何ともしがたい事が、そんな中で稲穂が出た。何とかましい事か、こんなことを殊更に思ふ。とうすれば時間がないとのことで、主に「合併することが最優先」になるのが、誰もが直接参加できる共生社会の構築を念頭に置いて、町づくりの方針にしています。合併後では遅いんです。今はまだ、これからです。

この声を「いまさら」としないで、この声にそしもつと多くの声に耳を傾けて下さることを関係者に訴えたい。そしてそれを見守りたい。

特例などと言わざ首長と同じ選挙をするようにしてください。

また出来るならば住民投票も希望します。

（夏期、年末手当も含む。政務調査費、日当は各市町村で異なるので除外した。）

# 私の一般質問

堀田 賢逸



「光ファイバー」について  
六月議会の一般質問の要旨は、各戸に配布される『議会だより』によって報告されていますが、私が質問した「光ファイバー」について背景も含めていま少し私の考えを述べみたいと思います。

情報網の窓口  
オフィスだけでなく、一般家庭の中にもパソコンが急速に普及しました。目的は様々で様々な使われ方がされているのでしょうかが、計り知れない情報がパソコンを窓口に入ります。政治、経済、医療から料理、ファンション、レジャーなど何でもあります。これら的情報なしでは生きていけなくなると言つても過言で無いくらいです。そこで問題になるのは、情報網のことです。どれだけ手軽に良質の情報が得られるのか、国や県が力を入れているネットワークの整備に合わせて考えてみたいと提起したところです。

## 情報網の特性

### 一、ISDN (アイエスディーエヌ)

### 二、ADSL (エーディー・エス・エル)

Digital Subscriber Line の頭文字

三、光ファイバー (一見釣り糸のような、透明で細い線のことでガラスやプラスチック製が多く、光線を流して情報を送信します)

「ISDN」は全県下で現在利用可能なサービスですが、3つのうちでもっともスピードの遅いものです。  
「ADSL」は通常の電話回線をそのまま利用できるスピードの速いサービスで、秋田県が全市町村に普及しようと力を入れているものです。光ファイバーが普及するまでのつなぎと見られています。「光ファイバー」は光ファイバーケーブルを介して行われるもので、圧倒的なスピードと距離によるロスの少ない、究極の通信手段です。

ADSLは、既存の電話回線が使えるため低コストで良いというメリットがあります。しかし、ADSL交換局から3キロ以内がエリアで利用できますが、3キロを超えると極端にスピードが落ちるためメリットが少ないとわれます。平鹿町について言えば、浅舞中心部はADSL交換局の整備がされていて利用できるので、「整備されている町」となっていますが、醸醸にある交換局は整備されていないのでADSLが利用できないという情報整備してほしいという希望が多く寄せられています。

光ファイバーは、光ファイバーネットを設備するのに多額の資金 (ADSLの10倍) が必要となるため普及には時間がかかる (NTT) ようですが、国道13号線に幹線が埋設されているという状況もあります。

## 先進の町

十五年三月議会 小規模地域の問題点を解決できるか

県内IT事情

他に先駆けて光ファイバーを整備した町があります。由利郡矢島町です。私は同町を尋ねて話を伺つてきました。国と県から1億円ずつの補助を受け、1億円の過疎債を使って矢島町全町に整備したそうです。国が進めるIT時代に即して、最先端の整備をするによって2度3度と出費をさせない、情報格差を生じさせない英断と受け止めてきました。

6月議会で「平鹿町に光ファイバーネットをしたらどうか」と言う私の質問に町長は、「今すぐ単独で整備する計画は持っていないが市町村合併の中で地域格差を生じさせない環境を整える意味で考えていく」と答弁しています。

6月議会で「平鹿町に光ファイバーネットをしたらどうか」と言う私の質問に町長は、「今すぐ単独で整備する計画は持っていないが市町村合併の中で地域格差を生じさせない環境を整える意味で考えていく」と答弁しています。

この質問に対する町長は「地域から具体的な問題について相談があれば町として力になりたい」と答弁しました。地域の問題は合併があるうどなかろうと解決しなければなりません。みんなで力を合わせて一歩一歩進むしかなさそうです。

## 人の悪口について

伊藤武二

充分に、気をつけていたながら、人間は時としで人の悪口を言つてしまつてはつとする事がある。

今まで七十余年の間に、それとは知りながら、人の悪口を言つたりして、今さらながら私などは、時に校長の悪口を言つたり、知り合の人の悪口を言つたりして、今さらながら申し訳のない事をしたと悔やんでいる。人の悪口を言う前に、人は必ず自分の事を考えてみると、悪口を言おうとしている自分の欠点がわかつて来て、思いなおして人を咎めよう。一日一善という言葉はあるが、これも生きていくよい日常だろうとの頃考えている。町村の合併についてはいろいろな人が意見を述べているから、人の事だと考えずによく考

NTTによる説明会を行います。醸醸地区へのブロードバンド設置を希望するため現状を認識しましょう。

日時 八月二十七日 (水)  
午後七時

会場 醸醸公民館  
主催 醸醸パソコンクラブ

## 編集後記

「風」三号の発行は一月でした。八月になつて四号の発行にこぎつけることができました。

三号が「正月版」本号が「お盆版」となりました。いま一番の関心事は市町村合併でしょう。「風」編集委員会としてこのことに触れないわけにいかない。しかしどう扱つて良いのか。苦慮しましたが、あえて「特集」を法定協議会に移行する時期にどうかと言う考え方もありました。あらゆる情報の人手源としてこれから不可欠なものになるであろうと考えたからです。

今づパソコンのネットワークに関して扱つてみましたが、あえて「特集」を組んで生の声を聞いてみましたが、あらゆる情報の人手源としてこれから不可欠なものになるであろうと考えたからです。